

令和4年【後期 学校評価アンケートについて】

【生徒】8～9割が「よくできている」「大体できている」と回答しているのは以下の項目である。

「授業はわかりやすく、基礎・基本的な学習を理解し、学力が身についていると思いますか。」

「これまでの授業で、課題解決にむけて自分で考え、自分から取り組みましたか。」

「授業での話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」

「学校行事・生徒会活動・部活動等に積極的に取り組み、充実感を感じていますか。」

「人の嫌がることや悪口を言わず、困っている人を気遣うことができていますか。」

「学校の決まりや公共のマナーを守れていますか。」

「携帯やスマートフォン・PC の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」

「困ったことや悩みを相談できる人はいますか。」(複数・最低1人はいる。)

「自分がよりよくなるように考え、行動・実践していますか。」

「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか。」

「他者の考えや個性など多様性を尊重し、協働することができていますか。」

「学校では安心して、楽しく過ごせていますか。」

⇒授業に取り組む姿勢も含め、生徒は誠実に取り組んでいるという意識や学力が身についているという実感があり、「よくできている」「だいたいできている」と回答している割合が前期より増加している。

ただ、ICT の活用や主体的な学習ができていないことを認識する結果となっている。自ら取り組むというより「しなければならないから、している」という受動的な学習が「計画立てて家庭学習を行っている」に対する回答が 1 割減少していることから伺える。「自分がよりよくなるように考え、行動・実践している」(85%)・「課題解決に向けて、自ら考え、取り組む」(87%)という意識が他に比べ、高まっているので、個に応じた課題や探究心をもたせる学習へのさらなる取り組みが求められる。

「学校の決まりやマナーを守れている」「携帯やスマホ、PC の使用について、家の人との約束が守れている」や「相談できる人がいる(複数あるいは1人はいる)」についてはよい方向への回答がさらに増加していた。規範意識は、自己存在感が大切な要素の一つであると考えており、今後も安心して学校生活を送れるように、教育活動を行っていききたい。

また、「悩みを相談できる人がいて、他者を受けいれる」ことが回答から見てとれ、生徒たちが落ち着いて過ごせる環境の中で生活していることを表している。いろいろなことを体験させ、挑戦させる土壌は十分にあるので、どのように種をまき、水・肥料を与え、ときには添え木をするを生徒の成長を見ながら教育活動に工夫をもたせたい。

【保護者】前期と変わらず、8～9割「よくできている」「大体できている」と回答されているのは「上部の太字」の項目と「子どもは、自分には、よいところがあると思っていますか。」であった。

前期と比較し、「よくできている」「だいたいできている」割合が「話し合い活動を通して考えを深めたり、広げたりしている」「ICTの活用ができています」と回答いただいているのは家庭内で授業での様子や端末を活用している姿が見られていることによると思われる。また、キャリア教育(進路学習やチャレンジ体験)や 2 学期の行事等から「将来の夢や目標をもっている」「失敗を恐れず挑戦している」の回答がよい方向への増加につながっていったと考えられる。

「生活習慣が身につく、家の人と約束したことを守っている」が増加したことからは、個々のよりよい生活に対する意識への高まりが伺えた。

読書習慣や地域社会に対する意識向上を求める回答からは、保護者が幅広い教育を求めていることが表れており、家庭や地域とともに教育活動を考えていく必要があるといえる。